

第5学年音楽科学習指導案

1. 題材名

音楽の仕組みを生かして旋律をつくろう

2. 題材の目標

(1) 音楽科としての目標

- 音の上がり下がりやリズムを考えながら即興的に旋律をつくる。
- 反復や変化などの音楽の仕組みや働きを生かして簡単な旋律をつくる。

(2) 汎用的スキル

- 目指す音楽への見通しをもちながら、友達と協力して音楽をつくる。**(先を見通す力) (協働する力)**
- 自分とは異なる発想や表現から自らの発想を広げ、多様な表現方法を取り入れながら音楽をつくる。**(感性・表現・創造の力)**

(3) 態度・価値

- 友達がつくった旋律のよさや面白さを感じ取り、多様な表現の仕方を認めたり受け入れたりする。**(他者に対する受容・共感・敬意)**
- 自分がつくった旋律を見つめ直し、より良い音楽を目指して考えたり工夫したりする。**(向上心)**

3. 児童の実態

3年生の時から積み重ねてきた声づくりの成果で、歌うことが好きな児童が多い学年である。やわらかく遠くまで響く発声で歌うことができ、2声の合唱でも美しく声を重ねることができる。合唱の題材を通して、「きれい」「楽しい」などの音楽の楽しさ・面白さ・よさを感じる経験や、「もっとよくしたい」「うまくなりたい」と、よりよいものを目指して自分の音や音楽を見つめ直す経験を多く積み重ねてきている。しかし、「それもいいね」「なるほど」という多様な表現の仕方や感じ方を認めたり受け入れたりすることや、「こうするためには…」という目指す音や音楽に向かって見通しをもつことの経験はまだ少ない。また、これまでの音楽づくり領域の学習では、即興表現を扱うことが多く、思いや意図をもってよりよい音楽を目指していくような経験が少ないと考えた。本題材では、音楽づくりを通してこのような経験を重ねていきたい。

4. 題材について

①教科から見た特性

本題材では、音楽の仕組みの中でも最も基本的な原理である「反復」と「変化」を扱っている。音楽は「反復」で構成されているものが多いが、時に「変化」があることによってその良さや面白さを味わうことができる。音楽づくりの活動を通して、ひとつの旋律を反復させるだけで旋律が出来たという喜びを味わったり、変化させると旋律に面白さが加わるという楽しさを感じたりすることができる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

◎「他者に対する受容・共感」や「感性・表現・創造の力」を育むために有効な場面

よさや面白さを感じ取ったり、新たな発想を喚起したりすることができるように、児童の作品をいくつか紹介し他のグループから発想を得る場面を設定する。

◎「先を見通す力」を育むために有効な場面

子供達の思いや意図を学習に生かすために子供達自身がふり返ったり、教師が子供の学びを把握して指導に生かしたりするワークシートを活用する。

◎「協働する力」を育むために有効な場面

1人1小節を4人でつなげて旋律をつくり、個人で行う活動と友達と一緒にいる活動を組み合わせる。

5. 題材計画と資質・能力を育成する主な手立て (全5時間 本時5/5時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・音の動き(上がり下がり)を考えて音楽をつくる ・リズムを考えて音楽をつくる	○先を見通す力 ○協働する力	○自己評価シートをもとに前時の学習をふり返る ○1人1小節をつくる役割分担
第2次 (3時間)	・くり返しや変化を生かして音楽をつくる ・くり返しや変化を生かして音楽を仕上げる【本時】	○感性・表現・創造の力 ○他者に対する受容・共感・敬意 ○向上心	○発想を広げる作品の紹介 ○他者との学び合いの設定 ○ワークシートへのコメント

7. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・自分とは異なる発想や表現から自らの発想を広げ、反復や変化のよさを生かしながらどのような旋律をつくるかについて考えをもちながら旋律づくりに取り組んでいる。
- ・自分や友達がつくった旋律のよさや面白さを感じながら音楽をつくる活動を楽しみ、よりよい表現を目指して自らがつくった旋律を見つめ直す。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	○ 常時活動： 既習の合唱曲を歌う。	◇既習の歌唱教材にも反復や変化が用いられていることに気づかせ、音楽づくりへのヒントになるよう、反復や変化が特徴的に用いられている部分を重点的に歌う。 (感性・表現・創造の力)
くり返しや変化を生かして音楽を仕上げよう		
展開 30分	○ 友達がつくった旋律を聴いて、自分たちがつくった旋律を見つめ直す。 ・同じリズムでくり返すのに、音の上がり下がり逆にしてるところが面白いね。 ・始めは音の上下がゆるやかで落ち着いた感じがしていたのに、急に音が飛んでびっくりした。 ○ くり返しや変化を生かしながら、旋律を仕上げる。 ・始めは音を伸ばしているのに、同じ旋律をくり返した時に音を切っているのは、カルメンの合奏でやったね、私たちも取り入れてみよう。 ・くりかえした後、音が重なっていくのは、合唱でよく出てくるパターンだよ。どうやったら取り入れられるだろうか。 ○ 完成した旋律を発表し、つくった旋律のよさや面白さ共有する。	◇前回の授業までに、くり返しや変化を生かしてつくっている児童の作品をいくつか紹介し、よさや面白さを感じ取ったり、新たな発想を喚起したりすることができるように促す。【他のグループから発想を得る場面の設定】(先を見通す力)(他者に対する受容・共感・敬意) ◆友達がつくった旋律を聴いて自分の発想を広げ、反復や変化のよさを感じながらつくろうとしている。【観察・ワークシート】(向上心)(協働する力) ◆自分や友達がつくった旋律のよさや面白さを感じながら音楽をつくる活動を楽しみ、よりよい表現を目指して自分がつくった旋律を見つめ直しながら取り組んでいる。 【観察・発表】
結末 8分	○ 旋律がくり返したり変化したりすることのよさや働きについて振り返る。 ・旋律が変化すると、音楽が少し盛り上がる感じがしました。これは、合唱でも同じところがあるなと思いました。これからは、変化するところを意識して演奏していきたいです。	◇「旋律が変化するとどんな感じがしたか」という発問を投げかけ、音楽が変化することのよさについて、全体で振り返るよう促す。(感性・表現・創造の力)